



かなざきひさを応援する会・会報 43号 事務局 上山口 1878-9 Tel&Fax 878-7961 携帯 090-4076-2425

E-Mail kanazakihi@jcom.home.ne.jp URL <http://members2.jcom.home.ne.jp/kanazakihi/>

ご挨拶：3月11日に発生した東北関東大震災では多くの人命が犠牲になり、そして、多くの人々が困難に立ち向かっておられます。心からのお見舞いを申し上げます。そして、今、私たちにできることは何なのか、自問自答している毎日です。この悲しみから復帰して、また、明るい未来を夢見ることができるよう、祈ってやみません。

金崎ひさ

葉山町議会第1回定例会が開催されました。 期日平成23年2月8日～3月10日

平成23年度予算特別委員会が設置され、かなざきひさが委員として審査をいたしました。一般会計当初予算案はとても納得のいくものではなく、森勝美議員以外の全員により、否決されました。

○かなざきひさが反対した理由

- ・ **し尿の下水道投入施設整備事業 (3億1,755万6,000円)**
し尿はクリーンセンター内で焼却処理をしておりましたが、それを廃止し、下水道へ投入するための施設建設を予定しております。21年度には実施設計をしており、その委託料1,890万円がすでに支払われています。ところが、その建設予定の町有地が県土木所有の土地で区切られており、「その土地を借り受ける予定であるが、まだ了解を得ていない」との説明を22年第4回定例会で受けておりました。そして、今議会の初日に、町長から「借りるべき土地が存在しなかった」との報告を受け、緊急質問がなされました。結果、借りる予定であった所は逗葉新道であり、すでに設計を済ませている施設を建てるには土地の広さが足りないことが分かりました。それなのに、何事もなかったかのように、以前と同じ額の予算が計上されておりました。「新たに小規模にして計画をやり直すことを模索している」との答弁でしたが、予定も素案も何もない上での予算計上であり、到底認めるわけにはいきません。設計料1,890万円の無駄遣いをどのように考えているのかも不明でした。
- ・ **ごみ焼却炉修繕費用 (8,786万2,000円)**
22年11月25日にクリーンセンター放流水からダイオキシン類が検出され、焼却炉を停止しております。まだ、県からの指導も行われていない状態にもかかわらず、予算は例年並みの修繕費を計上しておりました。これは4月1日からは淡々と焼却炉を稼働するという予算です。余りにも状況認識がなく、予算を計上するという根本の考え方も持ち合わせていないような町長の姿勢に予算審査が混乱しました。
- ・ **戸別収集用指定袋関連経費 (4,188万9,000円)**
葉山町指定のごみ半減袋を作って、各家庭に一定枚数、無料配布しごみ半減化に努力してもらうとのことでしたが、燃やすためのものに毎年毎年この予算が必要になる事業です。なぜ、指定のものでなければいけないのか、との質問に半減を達成するためには半減袋が必要であるとの答弁でした。この指定袋を配るための事務手続きなどに担当課が時間を費やすよりも、資源化・減量化のために、町民の中に入って説明をすることの方が大事であると思います。資源化・減量化が徹底すれば、どんな袋に入れようが小さくまとまると思います。
4,000万円あれば、小児医療助成の年齢や海水浴場の開設期間の拡大、青少年会館の建替え、街頭のLED化等喫緊の課題が解消されます。
- ・ **町長査定における減額**
小中学校の就学援助事業における準要保護援助の規定を教育委員会では1.3から1.5に引き上げる予算を組みました。ところが町長査定において1.3に引き下げられました。また、葉山ふるさと広場実施補助金が担当課では41万円の予算を組みましたが、町長査定において20万円に引き下げられておりました。それに関連して、教育日本一を目指すとの町長マニフェストも空論であったことが判明し、また、町の活性化策の考え方も皆無であると判断いたしました。

議会最終日に再び23年度予算が修正して示されました。内容は上記の中で葉山ふるさと広場実施補助金のみは変更してありませんでしたが、他の4点は改正されておりました。よって、予算否決により町民サービスが滞ることは本意ではありませんので、23年度予算を賛成いたしました。

○ 葉山町廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例の一部を改正する条例 否決

7月から戸別収集をするにあたり、燃やすごみの指定袋制度を導入するという条例改正です。世帯人数によりごみ袋の大きさを決定しており、また、指定ごみ袋の作成等に4,000万円余りが毎年の経常経費になるなど、将来に禍根を残す恐れがあり、否決いたしました。

○ かなざきひさの一般質問

議員 3 期目の最後の一般質問ですので、その総括としての質問をいたしました。

質問と提案	理事者側の答弁
障がい者グループホームへの町有地提供について、提供するとの答弁をいただいているが、その進捗状況は。	担当課が期限など全てを把握して、心にとめてやっている ので大丈夫である。 (保健福祉部長)
タクシー券交付事業について、利用者は 1 回に数枚の使用を希望しているが改善する気があるのか。	23 年度中には方向性を見出して、積極的に改善を図って いく。 (町長)
ダイオキシン類の検出により停止しているごみ焼却炉について、今後のお考えは。	25 年度末までは改良工事等により稼働させる。 (町長)
12 月の町長答弁では、ダイオキシン類発生について「焼却炉自体にもいつ異変が起きるかわからないということに心配していた」とある。その焼却炉を使用し続けるということは、もうその危機感はなくなったということか。	安心して使えるためにどういう程度の補修や対策が必要 か、県と協議している。 (町長)
34 年使っている焼却炉を更に修繕して使い続けることに 対して、大変不安を感じていらっしゃる 2 つの自治会から 焼却炉廃止の要望書が出ているのをご存じか。	承知をした上での決断だ。 (町長)
ごみ処理基本計画の策定スケジュールは。 日にちがないが、本当にできるのか。	22 年度中、3 月末日までに策定する。 (町長)
施設整備をどのように変更するのか。	「長寿命化を図る」という書き方を少し変更したい。 (生活環境部長)
数値は。	変更しない。 (生活環境部長)
資源物ステーションについて。	25 世帯に 1 カ所、全町で現在 900 カ所あるステーション を 500 カ所にする。 (町長)
そのステーションを使って、業者委託の資源物と曜日を変 えて町が直接収集をしている品目を出す方法を考えている のか。それは非常にわかりづらいと思うが。	そのような方法で行うつもりだ。 (生活環境部長)
プラスチック分別について。	容器包装プラスチックとプラスチックごみの 2 種類に分け て出している。 (町長)
その処理費は。	容器包装プラは 6 万 900 円/トン、その他プラは 3 万 3,075 円/トンである。 (生活環境部長)
容器包装プラの排出について、町民の方はきれいにし て出すために大変な手間をかけている。それで処理費が高 いのでは町民の方への申し開きができない。	容器包装プラは容器包装リサイクル協会に出しており、リ サイクルのための中間処理が必要となり、割高になる。 (生活環境部長)
せっかく中間処理をされたものも、年度によってはサー マルリサイクルと称して燃している。その他プラはそのまま サーマルリサイクルとなっており、分別の必要性を感じな い。町税の無駄遣いと思わないのか。	21 年度から入札差金の一部還元されており、600~280 万円のもどりがあった。 (生活環境部長)
プラスチックを分別しなければ、1,000 万円の処理費の削 減となり、町民の方々の手間もはぶける。	容器包装リサイクル法で定められており、6 割の自治体が これに加入している。 (生活環境部長)
ゼロ・ウェイスト政策の中で、処理費の無駄をつくら ない町を目指している葉山が、独自性を持ってすすむこと も必要であると思うが。	詳細を担当からよく聞いて、そのような方向性も検討し ていきたい。 (町長)
かなざきひさの考え ごみ問題に関しては、まだまだ提案し続けなければならないことがたくさんあります。継続して問題点を指摘できる よう頑張ります。町民の方々にとって負担の少ない方法を模索します。	

○ 森英二葉山町長の不信任決議（案）否決

森町政になって 3 年、議会軽視、陳謝、答弁の撤回、公約の反故などを幾度となく繰り返し、職員の士気の低下など町のトップとしての求心力を全くなくしております。今議会でその集大成のような事態が重なり、遂に、伊東圭介議員により不信任決議案が提出されました。かなざきひさ・加藤・佐野・鈴木知一・笠原・中村・守屋・伊藤友子・待寺各議員の賛成がありましたが、12 名の賛成が必要な決議であり、残念ながら否決となりました。

なお、森議員は妻という立場で除斥、山梨・阿部議員が反対討論をし、他の議員（土佐・近藤・畑中・鈴木道子）も反対となり、賛成 10 票・反対 6 票でした。

このような状態で、定例会は終了し、いよいよ議会議員の改選が行われます。多くの課題を残しておりますので、今後ますます厳しい行政へのチェックが必要となります。それにふさわしい議員が選ばれ、きっちりとチェック機能を果たし、町民のためのまちづくりをすすめていける議会になりたいと、切に願っております。